

日本赤十字社和歌山医療センター 医療連携だより

秋号
No. 75



和歌山医療センター

和歌山市小松原通四丁目20番地

TEL: 0120-965-582 (医療連携課)

(発行責任者) 管理局長 宮本 明典

FAX: 0120-937-510 (医療連携課)

e-mail: renkei@wakayama-med.jrc.or.jp



がんセンターを開設します ～ユニット診療による最善のがん治療をあなたに～

院長 平岡 眞寛

はじめに

日本人の二人に一人が罹り、三人に一人が死亡するがんは、文字通りの国民病であり、その克服は医療における最大の課題の一つです。がんの生存率が全国的に見て下位に位置する和歌山県では、その対策が特に強く求められます。

近年、医療技術の進歩、少子高齢化の急速な進展、がんに対する個人または社会の考え方の変化などにより、がん医療は大きな変革を起こしています。

医療技術の進歩にはめざましいものがあります。鏡視下手術・ロボット支援手術による低侵襲手術、定位放射線治療・強度変調放射線治療にてがんを狙い撃ちにする高精度放射線治療、ノーベル医学生理学賞となった免疫チェックポイント阻害剤の開発など、がん治療の3本柱である外科手術、放射線治療、薬物療法いずれもが新たな時代に入っています。消化管がんにおいては、日本が得意な内視鏡検査の発展にて数多くの早期がんが発見され、内視鏡治療にて100%近い治癒率が得られています。これらの高度な医療は、がんの生存率ならびに治療の質の向上に大きく貢献すると期待されています。その一方で、術者のスキルが今まで以上に求められ、また、個々の患者にどのような治療を提供するか専門医間での情報共有が欠かせません。

高齢化社会の急速な到来によって、高齢のがん患者さんが大きく増加しています。糖尿病、心疾

患、腎疾患など併存疾患を有することが多く、標準治療の実施が困難な心身状態にあることが少なくない高齢者のがん医療には、がん診療の枠を超えた病院の総合力が求められます。

がんを取り巻く社会環境については、患者さんの心、尊厳を大切にすることががん医療への要請があります。それに呼応するのが、緩和医療の役割増大であり、がん診断がついた段階から緩和医療チームの関与が望まれます。更には、患者・家族の相談支援、就労・両立支援への対応は、厚労省のがん対策に盛り込まれ、その対応が急がれます。

がん医療は、入院医療から外来医療へとシフトしています。放射線治療、薬物療法は外来での治療が中心となり、手術などがん治療に伴う入院期間は減少の一途です。在宅がん医療の増加と合わせ、救急にて対応するがん患者が増加しており、安心してがん医療を受けていただくには、がん救急への対応が必要です。

すなわち、急速に高度化している先進医療をがん患者さんに如何に迅速、安全かつ適正に提供していくか、高齢者がんの増加、がん救急、患者・家族への包括的な支援など社会が求めるがん医療の環境整備を病院として如何に進めるかが、現在、求められています。

日本赤十字社和歌山医療センター（以下、当センター）は、健診から、診断、治療、緩和医療、救急に至るまでがん医療のあらゆる状況に対応する機能を有し、また患者・家族への各種の相談支

援を行っています。2019年には、がん診療連携拠点病院「高度型」に認定されました。

これらの実績の上に、時代が要請するがん医療に正面から応えるべく、当センターにがんセンターを開設することにしました。令和3年1月12日に開設予定です。

がんセンターの概要

名称は、日本赤十字社和歌山医療センター「がんセンター」、愛称は日赤がんセンターです。理念は、「当センターの総合力を結集して患者さん一人ひとりに合った最善のがん医療と心を込めた支援を提供します」

本館2階に外来がん診療の中核機能が集約化されます。臓器がん別の13のユニット、臓器横断的な放射線治療科、腫瘍内科、緩和医療内科の外来、がん看護外来、がん薬剤師外来、がん周術期ケアセンターを新たに設けます。肺がん、乳がん、食道・胃がん、大腸がん、肝胆膵がん、前立腺・尿路がん、婦人科腫瘍、頭頸部がん、血液腫瘍、脳腫瘍（転移）、骨転移、小児がん、原発巣不明がんという13のユニットでは、診療科を超えた専門医が結集して、患者さんの意向を尊重しながら、最良の治療法を決定します。がんセンターの心臓部分であり、ネットワーク会員の皆様とがんセンターを繋ぐ窓口でもあります。

がんセンターの傘下に各種のがん医療を実施あるいは支援する8センターを置き、がん診療機能の強化を推進します。がん検診センター、内視鏡センター、がんゲノム医療センター、緩和ケアセンターは現存するものを強化し、最先端手術センター、高精度放射線治療センター、薬物療法センターは、手術、放射線治療、薬物療法の3本柱をそれぞれ更に高度化します。新設するがん周術期ケアセンターでは、治療前の早い段階から多診療科・多職種が患者に介入し、患者を心身ともにより良い状態にして治療を行い治療成績の向上を期するものです。また、患者、家族、社会への支援活動を実施する3センターとして、がん情報センター、学術研究センター、がん相談支援センターを置きます。新たに設置するがん情報センターでは、当センターのがん診療実績を公開するとともに、最新のがん情報を和歌山県民に向けて発信します。

どのような特徴があるか？

- 1) 「臓器別がんユニット」にて個々の患者さんに合った最善の治療を提供
外科手術、放射線治療、薬物療法、内視鏡治療など先進的ながん医療を実施している専門医が診療科を超えて結集した各臓器別がんユニットにて、個々の患者さんに合った最善の治療を提供します。
- 2) 総合病院のメリットを生かしたがん医療の実施
糖尿病内分泌内科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科などの専門医との連携により、併存疾患を有するがん患者さんにも高度ながん医療を提供します。免疫チェックポイント阻害剤では効果が高い一方で、重篤な有害事象が全身に発症するリスクがあります。これらに適切に対応するにもこの連携は有用です。総合病院の利点である多くの診療科による多様な診療機能を活用したがん診療を行います。
- 3) がん救急への対応
高度救命救急センターである当センターでは、全例応需を掲げ断らない救急医療を実践しています。がん診療でも例外ではなく、救急外来を受診するがん患者に救急医と担当医が連携して、迅速かつ的確な対応が行えます。
- 4) 職種の垣根を超えたチーム医療による患者支援
看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床心理士、理学療法士・作業療法士、診療検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、歯科衛生技師など医師以外の数多くの医療スタッフ、社会福祉士、事務スタッフが一丸となって、がん患者・家族の視点に立った支援を行います。
- 5) 11に及ぶ各種センターを設置して、包括的ながん医療を推進

和歌山の地に根差した、いついかなる時にも対応する当センターの伝統を堅持しながら、皆様からご紹介いただいた患者さんに最新のがん医療を提供したいと願っています。がんセンター開設に向けたご支援を切にお願いいたします。

院長補佐のご紹介

令和2年10月より井上元糖尿病・内分泌内科部長が新しく院長補佐に就任しました。現在の中大輔神経救急部長、山下好人消化管外科部長、伊藤哲之第一泌尿器科部長、吉田隆昭産婦人科部長、池上達義第二呼吸器内科部長を加えた6名体制で院長補佐の職務を遂行します。

井上 元 院長補佐 兼 糖尿病・内分泌内科部長



日本赤十字社和歌山医療センターは、日々活発に地域医療のために活動し、多くの患者さんのために職員みんなが働いています。その中で多くの疑問が生じますが、その都度改善を試みています。問題をそのままにしておかず、しっかり拾い上げ、検証し解析し、新たな視点を確認していくことによって、病院全体、各部署、各職員にとって、さらなるレベルアップにつなげることが出来ます。そのための仕組みを病院内で構築していく担当として、10月1日より院長補佐を拝命致しました。テーマの拾い上げ、活動の支援、論文作成の支援、活動環境の整備などを、順次行います。また皆様には、御協力をお願いすることもあるかと思えます。御指導を含めまして、よろしくお願いいたします。

遺伝性腫瘍外来(専門外来)のご紹介

豊福 彩 産婦人科部 副部長



今までの周産期遺伝カウンセリング外来に加え、令和2年8月より遺伝性腫瘍外来を開始しています。

がんゲノム検査の保険診療開始、がん治療薬に関するコンパニオン診断の拡がりから、遺伝性腫瘍が診断される機会が飛躍的に増えています。遺伝性腫瘍の患者・ご家族の診療、相談を適切に行うため、ゆっくりと時間をとり臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラー、専門医師が正しい情報、知識をお伝えしています。

対象となる方の例

- ・ 遺伝性腫瘍の可能性があるとされたが、詳細な情報が欲しい方
- ・ がんの治療法選択のためのコンパニオン診断や がん遺伝子パネル検査で遺伝性腫瘍の可能性を指摘された方
- ・ 家族のなかにがんの人が多く、遺伝について漠然と気になるような方

遺伝性腫瘍の例

遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)：乳がん、卵巣がん、膵がん、前立腺がんなど
リンチ症候群：大腸がん、子宮体がん、腎盂がん、尿管がんなど
※当院では遺伝性腫瘍に関連する各種遺伝学的検査、リスク低減卵管卵巣摘出術(RRSO)が可能です。

診療日時

第1・3・4(火)、毎週(金) 完全予約制

費用

初診時 11,000円(税込)

*当センターでがん治療継続中の方の初診は、5,500円(税込)
(すべて自費診療となります。各検査に伴う費用は別)

お問い合わせは、医療連携課(TEL 0120-965-582)までお願い致します。

日本赤十字社和歌山医療センター医療連携ネットワークの集い (現地開催及び WEB 配信) の開催について

例年 10 月初旬に開催しておりました標記集いですが、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、意見交換会をとりやめ、当センター内において講演会のみ開催することになりました。また WEB での配信も併せて行います。詳しくは医療連携課までお問い合わせ下さい。

日 時：令和 2 年 11 月 7 日 (土) 午後 5 時～午後 6 時 30 分

場 所：日本赤十字社和歌山医療センター 本館 12 階多目的ホール

講演会：①演題「医療連携実績報告について」

演者 医療連携総合支援センター副センター長 吉田 隆昭

②演題「新型コロナウイルス感染症に対する当センターの対応について」

演者 医療連携総合支援センター長 中 大輔

③演題「COVID-19 診療の実績」

演者 感染症内科部長 古宮 伸洋

お問い合わせ 医療連携課 TEL 0120-965-582

令和 2 年度診療科別合同セミナー・講演会等実施一覧

日時	診療科	会合・講演会名	参加人数 (合計)
9月12日(木)	循環器内科	リアルワールドミーティング in 和歌山 (リモート)	23名
10月1日(木)	眼科	Wakayama Eye Seminar (リモート)	22名
10月8日(木)	循環器内科	和歌山循環器フォーラム (リモート)	24名

就任のお知らせ

9月1日付

皮膚科 澤田 智也 (専攻医)

10月1日付

第一消化器内科部 枝川 剛也 (医師)

整形外科部 古川 剛 (医師)

皮膚科部 奥平 尚子 (医師)

第一泌尿器科部 太田 秀人 (医師)

放射線診断科部 大浦 達史 (専攻医)

外科部 大宮 崎規晶 (専攻医)

第一救急科部 山田 万里央 (専攻医)

第一消化器内科部 寺下 友子 (専攻医)

産婦人科部 濱口 史香 (専攻医)

第一消化器内科部 脇田 碧 (専攻医)

上記の職員が新たに就任いたしました。
よろしくお願ひします。

退職のお知らせ

7月31日付

血液内科部 島津 裕 (副部長)

産婦人科部 濱口 史香 (専攻医)

8月31日付

産婦人科部 三上 哲平 (医師)

腎臓内科部 大森 翔平 (専攻医)

9月30日付

形成外科部 小澤 隆矩 (医師)

皮膚科部 原 知之 (医師)

第一呼吸器内科部 野口 進 (医師)

第一泌尿器科部 藤原 裕士 (医師)

第一消化器内科部 中野 省吾 (専攻医)

第一消化器内科部 荻野 真也 (専攻医)

外科部 齊藤 靖裕 (専攻医)

放射線診断科部 光山 容仁 (専攻医)

上記の職員が退職いたしました。
大変お世話になりました。